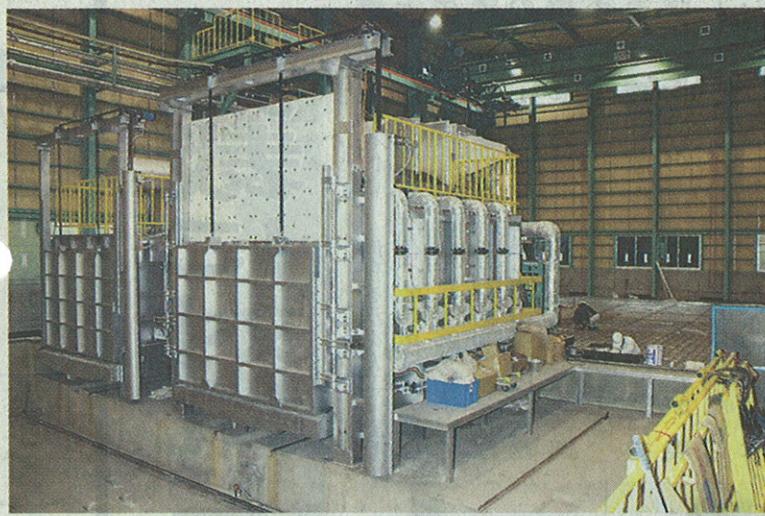


大型建機需要に沸く



鉄鋼・鉄部品製造の月、鋳造後の熱処理能力コマツキャスティング（水見市下田子）は十一月から稼働させる。本

県内機械部品メーカー

県内の機械部品メーカーが、大型建機向けの需要に沸いている。鉄鉱石などの資源開発が世界規模で繰り広げられているため、各大手建機メーカーが増産を加速。部品を供給する県内メーカーでもフル生産が続いている。需要は今後も堅調に推移する見通しで、各社とも生産能力アップを急いでいる。

各国で資源開発加速 生産設備の増強急ぐ

鉄炉を高めるため、新しい焼成炉を稼働させる。本社工場の鋳鋼生産力を現況の一割アップとなる月四千トンへ高める。平成二年度末には、生産能力を十八年度末比で七割向上させる方針だ。

佐藤泰樹社長は「コマツ本体の生産計画があり、何としても実現しなければならない」としている。

急ピッチでインフラ整備が進む中国などを中心に、世界的に資源需要が拡大。オーストラリアやインドネシア、ブラジルなどで、鉄鉱石や銅、ニッケルなどの資源開発が進み、建機需要は爆発的

に拡大している。建設機械先端機器メーカーの丸栄製作所（射水市鷲塚・小杉、今牧繁社長）は、建機用超大型バケットの増産を進める。

今月初旬、本社工場に大型クレーン一基を増設し

て計三台とし、重さ千トンを超える超大型バケットを月五個生産できる体制にした。三月から生産を本格化させてきたが、コマツや日立建機からの受注が拡大。今後も積極的に設備投資を行い、来年中には月産十個の能力を確保する。

輸送機器製造の中善工業（富山市小黒・大沢野、中川達也社長）も、油圧ショベル用の部品を日立建機から新たに受注した。従来は大型バケットを受注していたが、輸送機器製造で培った高度な多層盛り溶接技術が評価された。十一月から

量産体制に入る。
建機需要は今後も拡大が確実で、関連する県内メーカーにとって、生産能力の増強が業容拡大の鍵を握っているといえそうだ。

コマツキャスティングが11月から稼働させる新しい焼成炉